

薬局からのお知らせ（DI 通信） Vol.3



医療機関の皆様へ

日頃よりお世話になっております。

薬局からのお知らせを送付いたします。

日々の診療にお役立ていただきますと幸いです。よろしくお願いします。

Topic ①：乳癌患者の妊娠・出産のためのタモキシフェン中断についてのステートメント

乳癌患者に対するタモキシフェンの投与期間は 5 年～10 年と長期化しており、治療終了時には加齢に伴う妊孕性低下や周産期合併症が懸念されます。日本がん・生殖医療学会は、POSITIVE 試験（2023 年初回報告）に基づき、以下の通り最終投与からの望ましい避妊期間についての推奨を公開しました

- 最長 2 年として内服を中断して妊娠・出産を試みる場合、短期的な予後への影響はないものと考えられる
- 自然妊娠を試みたり採卵したりする場合、最終投与からの望ましい避妊期間は添付文書の通り 9 か月
- タモキシフェン内服前に妊孕性温存療法として採卵、凍結保存された胚や未受精卵を用いて妊娠を試みる場合、最終投与からの望ましい避妊期間を 3 か月とすることは許容されると考える
- 妊娠・出産後や中断が 2 年を超えた場合には、速やかにタモキシフェンの内服を再開することを強く推奨

* 日本がん・生殖医療学会「乳癌患者の妊娠・出産のためのタモキシフェン内服中断、そして最終投与からの望ましい避妊期間についてのステートメント」（2024 年 10 月 30 日）

Topic ②：がん＜患者＞に関するガイドライン



2024 年に発刊された、がん患者に焦点を当てたガイドラインを 2 冊ご紹介します。

・がん患者診療のための栄養治療ガイドライン

さまざまながん種を広く対象とし、栄養治療に関する推奨、知識、情報を提供しているガイドラインです。

がん患者の多くは、侵襲的な治療による栄養障害や、がんそのものの炎症や異化亢進などによる栄養障害を経験します。本ガイドラインでは 4 件の臨床疑問についてエビデンスに基づく推奨を提示、また、「背景知識」の章ではがん患者に対する栄養治療の基礎知識から最新の知見までを解説し、患者・家族向けの Q&A もコラムとして収載しています。

* 日本栄養治療学会「がん患者診療のための栄養治療ガイドライン 2024 年版 総論編」（金原出版、2024 年）

・がん患者における気持ちのつらさガイドライン

「せん妄」「患者・医療者間のコミュニケーション」「遺族ケア」に続く、がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ 4 冊目です。気持ちのつらさへの対応は「すべての医療従事者が温かく常識的な対応をすることが重要」とし、具体的には、(1) 支持的なコミュニケーション、(2) 気持ちのつらさの可能性への気づき、(3) ニーズの特定と対応、(4) 気持ちのつらさに類似した医学的状況の除外が必要、としています。抗不安薬や抗うつ薬は、がん患者に対する薬物療法のエビデンスがあまり確立していないとして、弱い推奨となっています。

* 日本サイコオンコロジー学会／日本がんサポーターシップケア学会「がん患者における気持ちのつらさガイドライン 2024 年版」（金原出版、2024 年）